

がんセンター だより

Tochigi
Cancer Center
Dayori

地方独立行政法人
栃木県立がんセンター



11 月号
2020



表紙写真：希少がんセンターのスタッフ
※撮影のためマスクを外しています

- p1・2 | 特集：希少がんセンターを開設しました
- p3 | 診療科のご紹介：頭頸科
がんリハビリテーションセンターの活動について
- p4 | がん口コモ外来を開設しました
- p5・6 | 医療安全推進室のご紹介
インフォメーション

vol.
18

特集

希少がんセンターを開設しました

希少がんセンターについて

栃木県立がんセンターでは、希少がんに対する診療・研究を迅速かつ適切に遂行するため、2020年4月に希少がんセンターを設置しました。希少がんセンターでは他の都道府県がん診療連携拠点病院と連携して、希少がん診療のネットワークの構築や、国立がん研究センターの希少がんセンターと情報交換を行います。県民が求める高度で専門的ながん医療の提供に向け、希少がんの領域においても悩み苦しむ患者さん、そのご家族をサポートできるよう様々な取り組みを進めてまいります。

希少がんセンター長メッセージ

希少がんセンター センター長
横島 一彦



栃木県を中心とする北関東地区は、希少がんについて相談・診療できる病院が少なく、希少がんに悩み、苦しんでいる患者さん、ご家族がいわゆる“がん難民”になっていることが多くあります。我々は、患者さんの苦痛を軽減し、ご家族の悩みを和らげることができるよう努力してまいります。

希少がんセンターの取り組み

希少がんセンターでは、以下の取り組みを、継続的、積極的に進めてまいります。

1

集学的診療（カンサーボード、多職種カンファレンス）

- 分野を超えて多職種で連携し、より良い治療方法を検討します。
- 診断から、根治治療、緩和治療まで、質の高い診療を目指します。

4

職員の教育・研修

- 院外より講師を招き、希少がんについての教育研修を行います。

2

診療支援

- ホームページ等で希少がん相談を受け付けます。
- 適切な病院での有効な診療に繋げることに貢献します。

5

臨床的・基礎的研究と臨床へのフィードバック

- 関連部署と連携し、希少がんの基礎研究への貢献に努めます。

3

情報提供・患者支援（ホームページ等の充実、セミナー・講演会の開催）

- 院外へ希少がんについての情報発信に努めます。



希少がんとは

患者数が少ない、まれながんである希少がんは、厚生労働省「希少がん医療・支援のあり方に関する検討会報告書（平成27（2015）年8月）」で、次の二つの条件に該当するがん種（＊１）と定義されています。

- 概ね罹患率・（発生率）人口10万人当たり6例未満
- 数が少ないため診療・受療上の課題が他のがん種に比べて大きい

希少がんは、症例数が少ないために、標準的な診療方針を根拠に基づいて示しにくい状況にあります。また、臨床的・基礎的な研究も十分に進んでいないというのが現状です。

さらに、これらのがん種は、いずれもがまれな腫瘍であるにも関わらずその種類は多く、すべての希少がんを合計するとがん全体の15～22%を占めると言われています。つまり、がん患者10人の内、2人が希少がんとされていて、希少がん全体で考えると決してまれとは言えない訳です。世代別にみると、小児からAYA世代まででは、希少がんの合計がさらに多くを占めるとされており、課題がさらに大きいと言えます。

＊１ 厚生労働省「希少がん医療・支援のあり方に関する検討会報告書」資料によると、希少がんに属すると考えられるものは81種あります。

【あ行】 悪性胸膜中皮腫・悪性骨巨細胞腫・悪性末梢神経鞘腫瘍・悪性腹膜中皮腫・悪性リンパ腫・アダマンチノーマ・横紋筋肉腫 【か行】 外陰がん・回腸がん・滑膜肉腫・眼窩肉腫・眼瞼腫瘍・眼腫瘍・眼内リンパ腫・眼付属器リンパ腫・嗅神経芽細胞腫・胸腺がん・胸腺腫・空腸がん・血管肉腫・原発不明がん・口腔がん・後腹膜の肉腫・肛門がん・骨巨細胞腫・骨原発血管肉腫・骨原発線維肉腫・骨原発平滑筋肉腫・骨軟骨腫・孤立性線維性腫瘍 【さ行】 子宮の肉腫・視神経腫瘍・GIST・脂肪腫・脂肪肉腫・十二指腸がん・消化管間質腫瘍・小腸がん・小児の血液・リンパのがん・小児の固形悪性腫瘍・小児の肉腫・神経鞘腫・神経線維腫・神経内分泌がん・神経内分泌腫瘍・脾・消化管神経内分泌腫瘍・脊索腫・線維肉腫・腺様嚢胞がん 【た行】 体幹の肉腫・単純性骨嚢腫・淡明細胞肉腫・腔がん・聴器がん・デスモイド腫瘍・頭頸部の肉腫・動脈瘤様骨嚢腫 【な行】 内軟骨腫・軟骨肉腫・軟部の肉腫・乳房外パジェット病・尿管がん・粘液線維肉腫・脳腫瘍 【は行】 胚細胞腫瘍・皮膚腫瘍・皮膚隆起性線維肉腫・副腎がん・腹膜がん・平滑筋肉腫・骨の肉腫 【ま行】 慢性リンパ性白血病・脈絡膜悪性黒色腫・明細胞肉腫・メルケル細胞がん・網膜芽細胞腫 【や行】 ユーイング肉腫・有棘細胞がん 【ら行】 類上皮肉腫

希少がんセンタースタッフ

センター長	横島 一彦	医師（頭頸科）
副センター長	土屋 欣之	歯科医師（歯科口腔外科）
	菊田 一貴	医師（骨軟部腫瘍・整形外科）
	仲地 耕平	医師（腫瘍内科）
ゼネラルマネージャー	中野 公子	臨床検査技師
スタッフ	貫井 昭徳	医師（泌尿器科）
	井上 浩一	医師（放射線治療科）
	阿部 信	医師（病理診断科）
	有馬 宏和	医師（婦人科）
	岸川 孝之	医師（呼吸器内科）
	飯田 千絵	医師（形成外科）
	青木 幸恵	看護師
	小倉 祐紀子	臨床検査技師
	屋代 和代	事務
	妹尾 有紀	事務



詳しくは
こちら



頭頸科

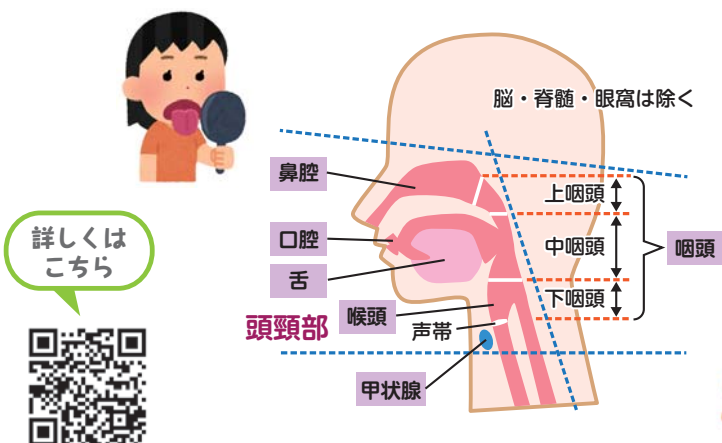
統括診療部副部長 兼頭頸科 科長 横島 一彦

栃木県立がんセンターでは、2020年2月に常勤医師による頭頸科を開設し、2020年4月より本格的に診療を開始いたしました。

栃木県内において、頭頸部癌の診療を担う病院は少ない状況にあります。当センターでは頭頸部癌に悩む患者さんのニーズに応えられるよう、少数精鋭のスタッフのもと診療内容を充実させております。主な対象である口腔・咽喉頭の扁平上皮癌、耳下腺/顎下腺由来の悪性/良性腫瘍、甲状腺疾患のすべてに対応が可能になっています。

これらの頭頸部癌の診療はどの段階においても頭頸科医だけで完遂できるものではなく、チーム医療が重要です。がん専門病院のメリットを生かし、手術においては形成外科や歯科口腔外科と、化学放射線療法では放射線治療科医や腫瘍内科医とのディスカッションをします。また、外来診療では外来看護師や各種技師と、入院治療では病棟看護師、薬剤師とのシームレスな多職種連携を実践していきます。このチーム治療が、診療の質を高め、有害事象を少なくし、入院期間の短縮や術後のQOL向上に繋がると考えています。

治療方針の決定におけるインフォームドコンセントにも重きを置いています。頭頸癌治療は、その内容が複雑である上、本邦では疾患の発生が少なく、一般に知られていないため時間を要しますが、丁寧に説明して、後悔しない決断ができるようにサポートしています。



がんリハビリテーションセンターの活動について

がんリハビリテーションセンター
ゼネラルマネージャー 伊藤 貴子

当センターのリハビリテーションは、医師や看護師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、管理栄養士から成る多職種チームで取り組んでいます。週1回の定例カンファレンスやチーム回診を行い、それ以外にも当院のリハビリテーションの拡充を図るための取り組みを行っています。がんリハビリテーションはすべてのがん患者さんが対象ですが、以下については特に力を入れています。

○手術を受ける患者さんのリハビリテーション

消化器癌や呼吸器癌、骨軟部腫瘍等の患者さんについて、術後の機能回復を促進するために、早期から離床や歩行練習、呼吸訓練、筋力向上トレーニング等を行います。



がんロコモ外来を開設しました

骨軟部腫瘍・整形外科

科長 菊田 一貴

高齢化社会を迎えた我が国では、昨今健康寿命維持の重要性が高まっています。

ロコモとはロコモティブシンドローム（運動器症候群）の略称で、加齢と共に、骨や関節、筋肉など運動器の衰えが原因で、「立つ」「歩く」といった機能（移動機能）が低下していく状態をいいます。この状態が進行すると、日常生活が不自由になり、介護が必要になるリスクが高まります。そのため、健康寿命の維持のためには、ロコモ対策による運動器機能の維持が重要となります。

がんの治療においても、ロコモが問題となることがあります。これを「がんロコモ」と呼びます。「がんロコモ」は加齢に伴う運動器の衰えだけでなく、がんそのものやがんに対する治療により運動器の障害が起きて移動機能が低下した状態です。がんロコモになって移動能力が低下してくると、日常生活に支障をきたし、介護が必要になるリスクやがんそのものの治療を継続できなくなるリスクが高まります。

当センターでは、骨軟部腫瘍・整形外科とがんリハビリテーションセンターが連携して、がんロコモ対策をおこなう『がんロコモ外来』を2020年9月に開設しました。がんロコモ外来では、個々のがん患者さんの状況に応じた個別の対応が重要であるため、主治医の先生との連携が不可欠であります。そのため、がんロコモ外来は当院でがん治療をおこなっている患者さんが対象となります。『がんロコモ外来』では、高度ながん治療の下支えをしながら、がん患者さんの運動器機能の維持に努め、がん患者さんがより良い日常生活を送りながらがん治療の継続ができるようにサポートしていきます。

- ロコモ度1…移動機能の低下が始まっている状態。
- ロコモ度2…移動機能の低下が進行している状態。
- ロコモ度3…移動機能の低下が進行し、社会参加に支障をきたしている状態。



詳しくは
こちら



○外来リハビリテーション

乳癌等の短期間で退院される患者さんには、外来通院でのリハビリテーションも行っています。また手術予定の患者さんのうち、術後に肺炎や無呼吸等の呼吸器症状を合併リスクが高い方には、術後の早期回復を図るため入院の前から呼吸訓練指導を行います。

○がんロコモ・リハビリテーションプログラム

がんロコモ外来での診察によって個別の運動指導が必要と判断された方については、定期的な身体計測や運動機能テストを行いながら、運動機能を高めるためのメニューを指導しています。



令和2年11月22日(日)～11月28日(土)は医療安全推進週間です

毎年11月25日(いい医療に向かってGO)を含む1週間は医療安全推進週間

「患者の安全を守るための共同行動(PSA)」の一環として、医療機関や医療関係団体等における取り組みの推進を図り、これらの取り組みについて国民の理解や認識を深めていただくことを目的として定められています。行政機関、医療関係団体、医療機関等において、この週間を中心として、医療安全向上のための様々な取り組みが進められています。当センターでも、毎年患者さんと医療者が、双方向性で医療の安全について考えるための企画を実施しています。

毎年の恒例行事



医療安全川柳



医療安全メッセージツリー



医療安全あいうえお作文ポスター

医療安全推進週間



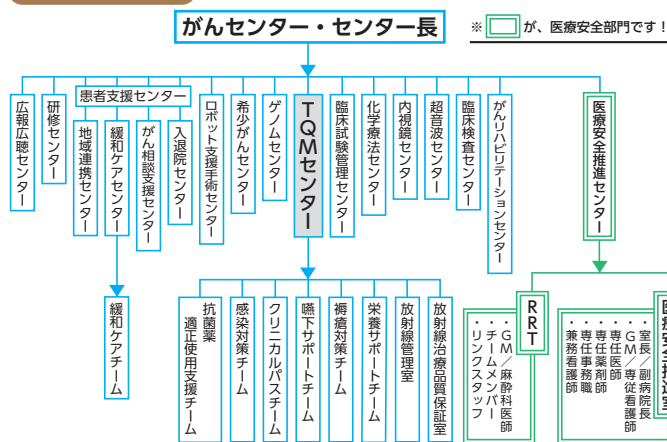
医療安全推進室のご紹介

医療安全推進センター・センター長：菱沼正一／室長：片野 進／GM：宮原 秋
医師：山本孝信／薬剤師：小林尚加／事務：青木英則／副看護部長：永井智恵美

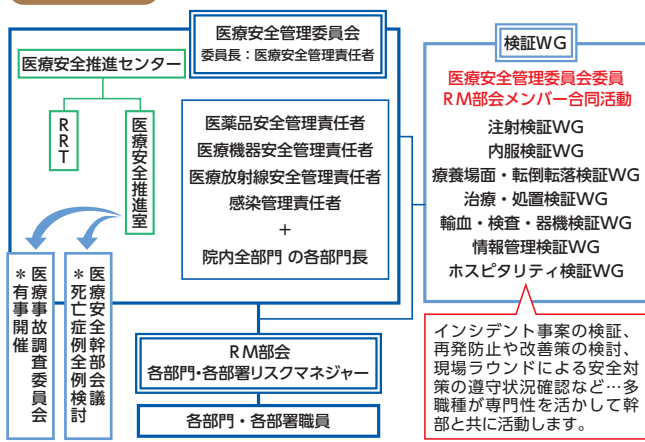
※掲載している写真は、新型コロナウイルス感染拡大前の活動写真です。

医療安全推進室は、理事長をセンター長とする医療安全推進センターの下部組織で、各部署・各部門のリスクマネジャーと連携しながら院内の医療安全推進を担っています。医療安全対策加算1、医療安全対策地域連携加算1の施設基準を満たす条件と活動はもちろんのこと、毎年、組織全体の医療安全目標を設定し、各部署や部門ではその目標を達成できるよう専門性や実態に応じた医療安全推進計画を立ててオールTCCで取り組んでいます。また、当センターには、県内唯一、国立保健医療科学院での医療安全専門課程修了者、日本臨床倫理学会上級臨床倫理認定士を医療安全管理部門に配置しており、患者さんの権利や価値観を尊重した医療が行われるよう支援しています。

事業系組織全体図



医療安全体制



当センターにおける医療安全体制の特徴

【特徴その1】幹部も含めた組織横断的な医療安全推進活動

当センターの最も大きな特徴は、事務部門も含めた各部署のリスクマネジャーが医療安全管理委員の幹部職員と共に7つの検証ワーキンググループを構成して組織横断的活動を実践していることです。医療安全管理者やリスクマネジャーだけでなく幹部とともに医療安全回診などを行うことで、現場の課題や実態の把握から検討・対策までが迅速に行えるため、現場や患者さんの安全に素早く反映できることが何よりのメリットです。

療養環境・転倒転落WGの活動
幹部職員とともに安全回診します！
(リハビリ環境の5S確認の様子)



全職員対象の医療安全研修会では、職種や職位を超えた意見交換が交わされます。



【特徴その2】全職員で取り組むチームSTEPPS（チームトレーニング）

チームSTEPPSとは、エビデンスに基づいたチームトレーニングで、良質なチーム医療に欠かせないリーダーシップやメンバーシップの発揮、相互支援、状況観察、コミュニケーションなどについて系統的に学ぶプログラムです。このトレーニングにより、患者さんや家族なども医療チームの一員として尊重すること、職種や職位を超えて意見を交わせる職場風土の重要性などを学び、実践しています。また、患者さんの急変などに備えた緊急時対応チーム（RRT）があり、十分なトレーニングを積んだ医療スタッフが迅速に対応できる他、事務職も含めた全職員が基本的救命技術を学んでいます。

RRT急変時対応トレーニング



チームSTEPPS研修の様子

【特徴その3】報告文化の定着

院内で発生した軽微な事象から予期せぬ死亡事案まで、当事者や発見者から報告する仕組みがあり、安全に資するための報告は職員の義務として明文化されています。特に、医師には治療に関連した死亡やトラブル、大幅な手術時間の延長や患者さんの経過に大きな影響を及ぼす出来事など10項目の報告を義務付けています。これらの報告は医療安全担当者と幹部が慎重に検討し、必要に応じて詳細な調査などを行います。また、毎年、報告件数、代表的事例及び対応策などをホームページに掲載し、当センターにおける医療の透明性と信頼の向上に努めています。

インフォメーション

ホームページリニューアルしました

栃木県立がんセンターのホームページをリニューアルしました。ロボット支援手術センター、希少がんセンター、がん口コモ外来/骨転移外来など、最新の情報を随時発信して参ります。ぜひご覧ください。



セカンドオピニオン外来を再開しました

新型コロナウイルスの感染拡大防止のために休止していた『セカンドオピニオン外来』を再開しました。

○セカンドオピニオンとは

診断や治療方法について担当医以外の医師の意見を聞くことをセカンドオピニオンと言います。当センターでは、がん専門病院の特徴を生かし、患者さんやそのご家族を対象としたセカンドオピニオン外来を実施しております。（保険診療ではなく、自由診療となります）

【特徴】

- ・がん専門医が豊富な知識と経験に基づき診察を行います。
- ・患者さんやそのご家族の利便性を向上させるため、平日の他、土曜日でも診察を行います。
- ・患者さん一人当たりの診察に十分な時間を確保しており、納得いくまでご質問いただけます。

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、付き添いのご家族は2名までとさせていただきます。

詳しくは裏面もしくはHPをご覧ください。



医療機関の皆様へ予約窓口のご案内

ご紹介いただきありがとうございます。当センターでは、患者さんの症状やご希望に応じた外来診療予約に心がけております。ご予約の際は、下記までご連絡ください。

予約センター ☎ 028-658-5012
受付時間 平日 8:30 から 16:30

※当センターは、初診、再診ともに予約制となっています。予約センターにお電話のうえ、受診日をご予約ください。また、予約枠に制限があり、ご希望に添えない場合もあります。予めご了承ください。

～当日、患者さんにお持ちいただくもの～

- ☐ 保険証、各種医療証
- ☐ 診療情報提供書(紹介状)

- ☐ 各種検査結果、画像データ(お持ちの方のみ)
- ☐ お薬手帳(お持ちの方のみ)
- ☐ 当センターの診察券(お持ちの方のみ)

●病診連携に関するお問い合わせ

地域連携センター

☎ 028-611-5503

平日 8:30 から 17:15

●がんに関するご相談

がん相談支援センター

☎ 028-658-6484

平日 8:30 から 17:00

●がんの遺伝カウンセリングや、ゲノム医療についての予約やお問い合わせ

ゲノムセンター

☎ 028-611-5480

平日 8:30 から 17:00

セカンドオピニオン外来のご案内

■平日午後

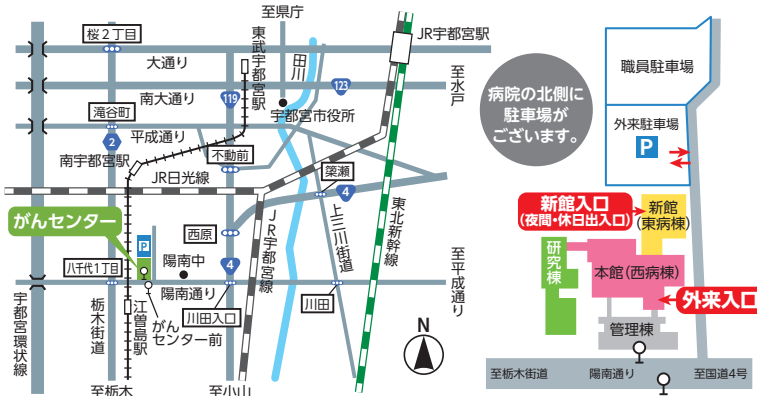
	月	火	水	木	金
主胆・膵		菱沼 正一 (第2週のみ)	菱沼 正一 (第1・第3・第4・第5 のみ)		
主肝			尾澤 巖		尾澤 巖
主大腸				藤田 伸 松下 尚之 藤田 剛 林 雅人 (※週毎の交代制)	
主食道・胃					
婦人科	町田 静生				
頭頸科				横島 一彦	横島 一彦
骨軟部腫瘍・整形外科	菊田 一貴				

■土曜日午前

	12月5日(第1土曜日)	12月19日(第3土曜日)
消化器外科 (肝胆膵)	富川 盛啓	白川 博文
消化器外科 (大腸)	藤田 伸	藤田 伸
呼吸器内科	笠井 尚	
呼吸器外科		松隈 治久
乳腺外科	安藤 二郎	北村 東介
泌尿器科		貫井 昭徳
がん予防・遺伝 カウンセリング外来	菅野 康吉	菅野 康吉

※予告なく変更となる場合があります

予約センター ☎ 028-658-5012(直通) 受付時間 平日 8:30 から 16:30



交通のご案内

電車・バス

●JR宇都宮線「宇都宮駅」より

⇒西口から関東バス「江曾島行(11番のりば)」に乗車。「がんセンター前」で下車。横断歩道を渡る。徒歩1分。(乗車時間約25分)

●東武宇都宮線「江曾島駅」より

⇒東口から関東バス「JR宇都宮駅行」に乗車。「がんセンター前」で下車。徒歩1分。(乗車時間約5分)

自動車

●東北自動車道「鹿沼I.C.」より

⇒東北自動車道「鹿沼I.C.」より宇都宮方面へ。「滝谷町」交差点を右折南進し、JR陸橋を越え3つ目の信号「八千代1丁目」を左折。(約9.4km)

⇒東北自動車道「鹿沼I.C.」より宇都宮方面へ。「宮環鶴田陸橋」を右折。「下砥上町」アンダーに入ってすぐ江曾島方向へ左折し7つ目の信号を左折。(約8.2km)

がんセンター
だより

vol. 18

11月号

令和2年(2020)
11月16日発行

発行 地方独立行政法人栃木県立がんセンター
 広報広聴センター
 〒320-0834 栃木県宇都宮市陽南4-9-13
 TEL. 028-658-5151(代) FAX. 028-658-5669

がんセンターの情報は

栃木県 がん

検索

URL <http://www.tochigi-cc.jp>

